

平成 30 年度学校目標

平成 30 年 4 月 27 日設定

視点	4 年間の目標 (平成 29 年度策定)	1 年間の目標	取組の内容	
			具体的な方策	評価の観点
1 教育課程 学習指導	① 生徒の学習意欲を高め、進路実現に応える教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。 ② 在県外国人の校内支援体制を構築する。	①生徒が主体的、協働的、探求的な学習に取り組めるよう授業改善に取り組む。 ②在県外国人に対して学習や学校生活の支援体制を整備する。	①2回の研究授業の振り返りとまとめを行う。また、有効的な生徒による授業評価の作成及び活用方法を提案する。 ①新学習指導要領への円滑な移行に向けた教育課程の検討をすすめる。 ②在県外国人支援チームにより日常的に在県外国人の情報共有を図り、有効な教育課程や課題の解決を検討・協議し、機動的に取り組み支援体制の構築を図る。	①研究授業において課題の抽出を行い、改善と満足度の改善がはかれたか。 ①新学習指導要領への移行を見据えた教育課程の研究・検討ができたか。 ②在県外国人支援チームを機動的に運営し、年5回程度の実績報告と支援状況の共有機会を設定できたか。
2 生徒指導・支援	基本的な生活習慣の確立と身だしなみの指導を徹底するとともに、生徒一人ひとりの課題に応じた支援体制の充実を図る。	①遅刻防止指導や身だしなみの指導等を行い生徒の規範意識の醸成を図るとともに、集団活動を通して社会性の涵養を図る。 ①課題を抱える生徒の全体的な把握と個別理解を進める。	①基本的な生活習慣の在り方やルールについての共有を図るため、明文化・可視化を進める。 ①始業式・終業式などの場で基本的な生活習慣の啓発活動を行うことにより、学校外での集団行動でも意識した行動がとれるよう体制を作る。 ①組織的な教育相談体制を整備するため、年次会等での情報共有の他にコアケース会議を行う。 ②スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを積極的に活用する。	①前年度と比較して指導対象者を30%減らせたか。 ①年間を通じて、時間厳守、挨拶励行、服装、言葉遣いやマナーの向上等を啓発し改善をはかることができたか。 ①適切にケース会議を開くとともに支援の方針を立てることができたか。 ②スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用実績を図れたか。
3 進路指導・支援	外部の教育力を活用し、「進学を重視した学校」として生徒の進路指導の充実を図る。	①適切な進路情報の提供を行うとともに、体系的な指導体制を構築する。	①特色科目(総合学科)、総合的な学習の時間を利用したキャリア学習のほか、進路講演会(各年次)受験ガイダンス(3年次)等で外部教育力を通じて、進路意識を高め、より高次の進路選択をする機会とする。 ①新しい高大接続に向けて、1年次生の意識を向上させる取り組みを行う。	①総合的な学習の時間やLHRにおいて平均10時間以上のキャリア教育と外部化教育力を活用した教育機会を5回実施できたか。 ①校内での実力試験等において、ランクアップが図られ、平均家庭学習時間を延ばすことができたか。 ①新しい高大接続への認識を高めることができたか。
4 地域等との協働	学校運営協議会制度の導入に向け、地域との連携・協働を進め、地域に信頼される学校づくりを進める。	①地域貢献活動やボランティア活動等を通して交流活動を推進するとともに、学校の取組について外部への情報発信を活性化する。	①HPを定期的に更新し、学校の取組を発信するとともに、今年度から導入するコミュニティー・スクールを活用し、外部の意見を聞く。 ①地域清掃活動などを通じて地域貢献活動の充実を図る。 ①清水ヶ丘ケアプラザ・保育園との合同避難訓練を通して地域と連携した取り組みを行う。	①HPの更新を毎月行うことができたか。 ①コミュニティー・スクールにおける提案・作業により具体的成果をあげることができたか。 ①清掃活動・ボランティア活動への参加数を増やす事ができたか。 ①生徒の防災意識が高まったか。
5 学校管理 学校運営	①私費会計の適切な管理、運営を行う。 ②定期テストや入学者選抜の際に事故防止に取り組む。	①帳簿の相互チェックと迅速な処理を心掛け、事故防止に努める。 ②不祥事防止に努め、教職員全員の意識高揚を図る。	②不祥事防止研修や事故防止会議を通じて、教職員一人ひとりが事故を起こさないという強い意識を涵養する。 ②各教科で定期テストの共通化を進め、作問内容の適正化とミスの事前防止に取り組む。	①会計担当者会と適正な会計処理についての研修会を実施することができたか。 ②定期的な自主点検と事故防止会議を実施できたか。 ②適切な作問となっているか。印刷等のミスはなかったか。